

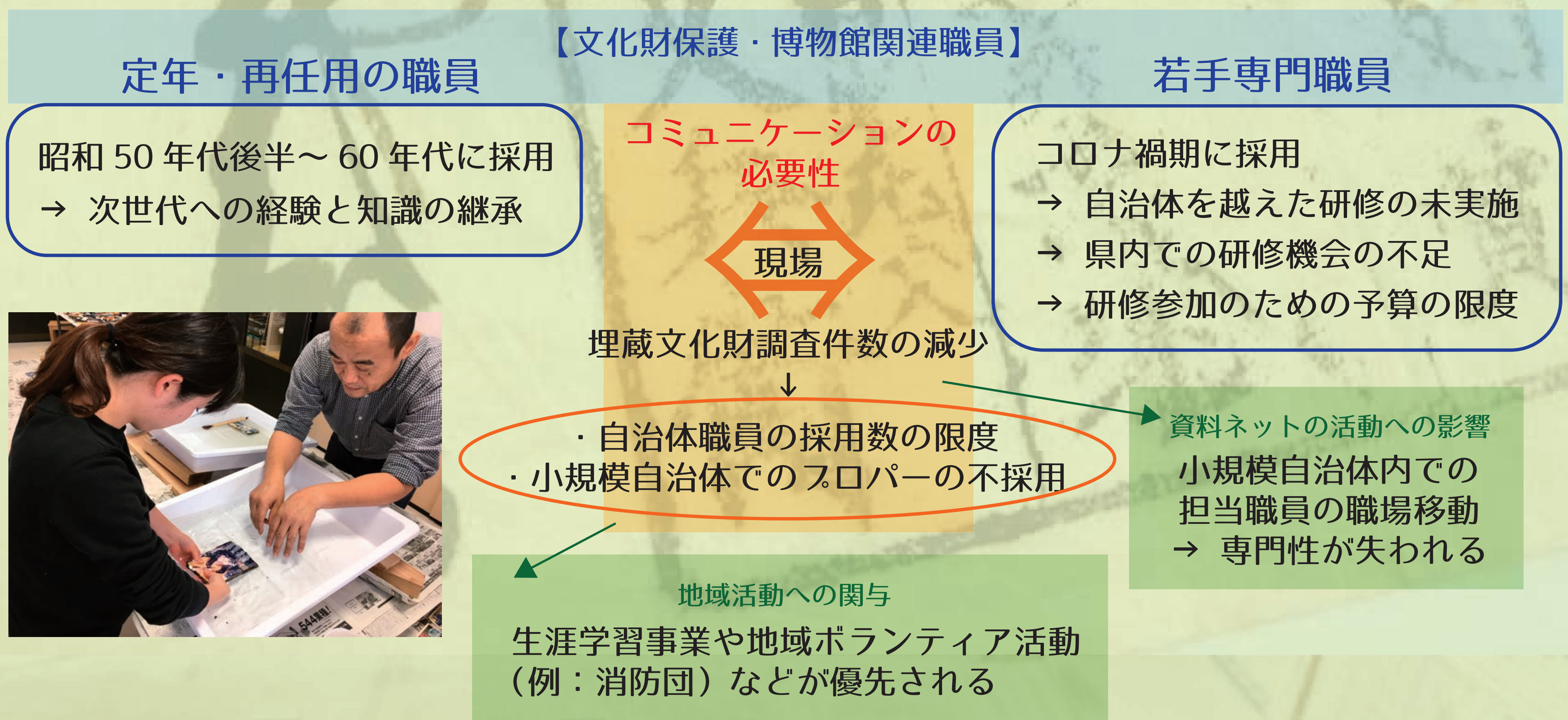
地域の資料ネットとして、継承をどう考えていくか

松山真弓・静海亜理沙・山内利秋
(宮崎歴史資料ネットワーク)

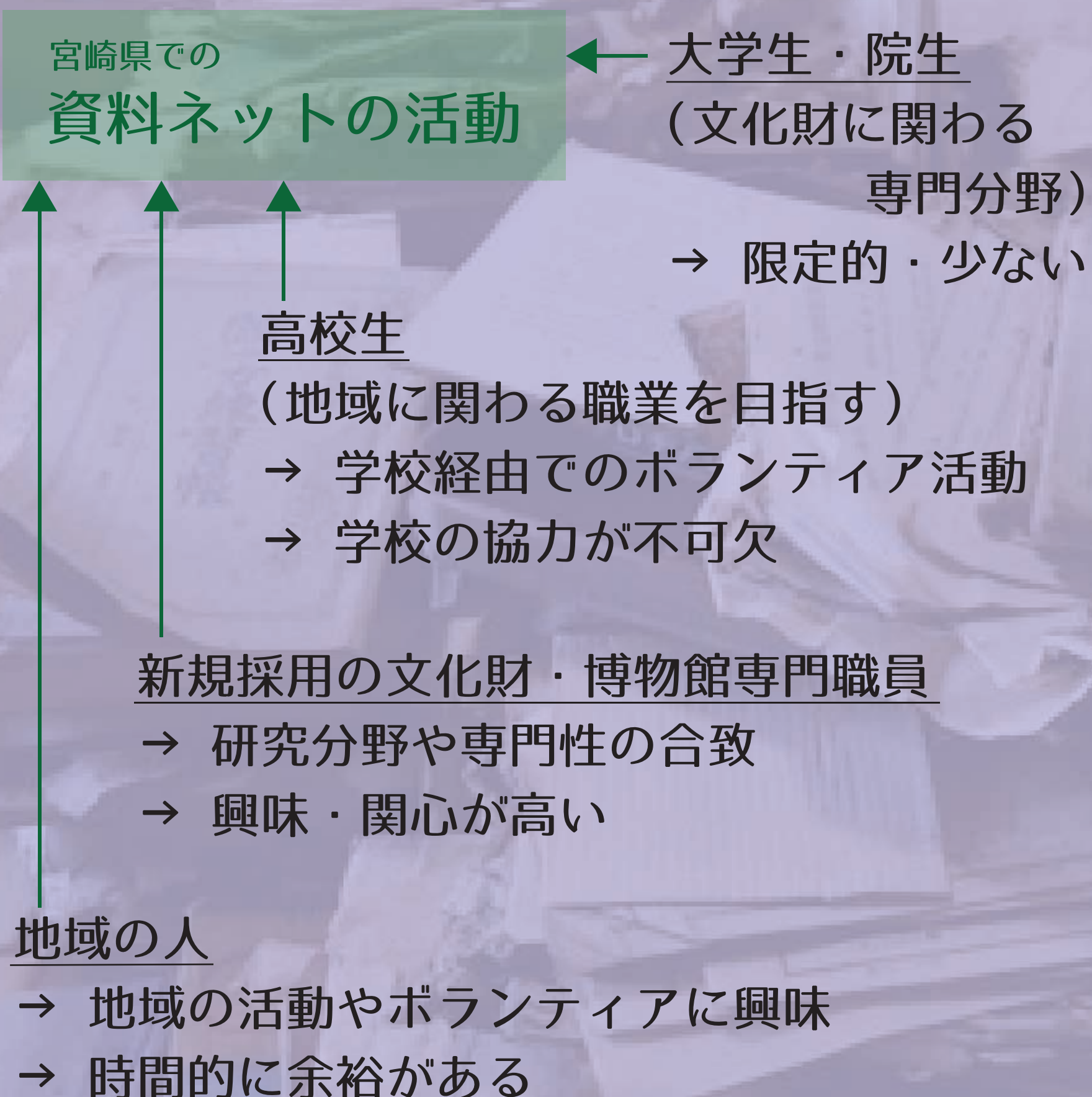
1. はじめに

宮崎資料ネットではメンバーに退職世代が増えており、活動の次世代への継承が重要な課題になっている。もともと「文化をまもる」活動は、ひとつの世代を越えたはるかに長い年月で実践されていくものであるため、遅かれ早かれこの問題は出てくる。活動の継承を行なううえで考えていくべき事は2つあり、一つは「次世代の主体的な関与」もう一つは「前世代からの技術継承」(次年度発表予定)である。今回は前者について検討する。

2. 世代交代の課題



3. 若手の関与、多様な主体の関与をいかに促すか



【宮崎史料ネットが「継承」にむけて目指すべきこと】

- ① 普及啓発活動を目的とした活動
 - ・低コストで波及性のある広報活動の検討
 - ・効果や満足度の高い普及教育プログラムの構築
 - ・より一層コミュニティへの還元を意識した内容
 - ・地元に住み続け、支えていく人たちの参加を強く意識。
- ② 若手職員の研修機会としてのプログラム構築
 - ・被災時フローを検討するDIGワークショップの展開。
 - ・被災時における各種資料の取り扱いについてのワークショッププログラムの検討。
 - ・地方では受講しにくい、正規職員以外には受講チャンスがない研修プログラムの企画。
⇒特に歴史民俗資料館等専門職員研修会を意識したプログラム。

